

「第9回徳山ダム環境保全対策委員会」審議内容等メモ

日 時：平成16年2月23日（月） 13:30～15:30

場 所：名古屋逓信会館 3階 桐の間

出席者：（委員）佐藤委員長、駒田委員、前田委員、松井委員、
水野委員、中村委員、西條委員（abc順）
（事務局）31名

【審議内容等】

1. 前回（第8回）委員会の審議内容等の確認

第8回委員会（平成15年9月16日）の審議内容等を確認した。

2. 事業実施状況及び今後の工事計画について

平成16年1月末までの工事進捗状況の説明がなされた。

平成16年度の主要な工事予定に関する説明がなされた。

環境学習会の開催状況に関する説明がなされた。

3. プロジェクトの実施状況について

各プロジェクトの活動状況と今後の活動予定について、以下のような報告がなされ、内容を審議した。

陸域環境：生育・生息環境 P T

1) 湿性地の整備状況について報告がなされた。

2) 横坑の存置の検討状況について報告がなされた。

陸域環境：植物 P T

1) 植物の重要な種の移植とその定着状況のモニタリングの実施状況について報告がなされた。

2) 表土を利用した在来種による植生回復の実施状況について報告がなされた。

河川環境 P T

1) お魚引越し作戦の実施状況について報告がなされた。

2) 工事にあたって河川環境に配慮し、河床へ大玉石を戻していることの報告がなされた。

ワシタカP T

1) クマタカの営巣環境解析、狩り場環境解析の検討状況について報告がなされ、植生や林齢等からみた特徴について議論した。これらの解析は、将来の森林管理を考えるうえでも有効であることを確認した。

4. モニタリング調査計画について

各P Tでの具体的な検討に基づき、モニタリング調査計画について説明がなされ、計画の内容を了承した。

1) 環境保全対策の効果の把握

- ・ 湿性地など、保全対策を講じた場所の管理の問題も含めP Tで検討していくことを確認した。
- ・ モニタリングの予算確保の問題についても配慮するよう指摘した。効果率的に実施していく方針である旨の説明がなされた。

2) 湛水による周辺環境の変化の把握

- ・ 先進事例なので、今後のダム事業にとっても有効なデータであり、できるだけ長期間にわたってモニタリングを継続するよう要望した。
- ・ 環境変化が観察された場合の対応も考慮して進めるよう指摘した。

5. 審議内容等の確認

本日（平成16年2月23日）の審議結果を本メモに基づいて確認した。